

国語シラバス 高校2年

1. 学習の到達目標と評価の観点

	単位数	学科・学年・学級	使用教科書と補助教材
(科目) 国語表現α	2単位	第2学年 《必修》	・教科書「国語表現」(大修館書店) ・小論文模試 ・日経電子版 for Education ・朝日新聞デジタル for students
学習の到達目標	国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語力の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。 ○課題に応じて400字～800字程度のまとまった文章を書くことができるようにする。「書く」訓練をする中で語彙力、論理力、構成力、表現力、発想力等を向上させる。 ○大学入試小論文の基礎（論文の書き方、課題文の読み取り、要約、データの読み取り、頻出テーマ各分野の基礎知識）を習得する。 ○志望理由書や自己アピール書を書く中で、自己を分析し、発見する。		
評価の観点	《知識・技能》 基本的な語彙力、論文の書き方を習得している。 文章や図表を読解し、筆者の主張や論点を的確に捉えることができる。 《思考力・判断力・表現力》 現代社会に関する様々なテーマについて、情報を収集・分析し、根拠のある自分なりの考えを持つことができる。 相手や目的、意図に応じた適切かつ効果的な表現による文章を書き、自分の考えを深め、発展させている。 《主体性・多様性・協働性》 様々なテーマについて考えを深め、また他者と対話していく中で、自分の立場や特性を再認識している。 幅広い視野を持ち、相手の立場を尊重した上で、自分の意見を主張することができる。		

【定期考査における観点別評価について】

定期考査は実施しない。

《知識・技能》については主に小テスト〔語句知識・要約〕、《思考・判断・表現》については主に授業内論文テスト・小論文全国模試、《主体的に学習に取り組む態度》については主に平常点(授業内取り組み、提出物等)によって、評価を行う。

【点数化が難しい課題については、観点別評価とする。】

A：「十分満足できる」状況と判断されるもの・・・100%

B：「おおむね満足できる」状況と判断されるもの・・・80%

C：「努力を要する」状況と判断されるもの・・・60%

D：未提出、未実施・・・0%

2. 学習計画及び評価方法等

※教育的効果を考え、事前に生徒に説明した上、扱う教材・内容を変更することもある。

	単 元	学習のねらい	学習のポイント、使用教材等
1 学 期 中 間 考 査 ま で	●文章の書き方(1) ・不十分な日本語／伝わりづらい表現に敏感になる ・論理的・建設的に説明する	・主述の関係、副詞の呼応、文末表現の統一、話し言葉と書き言葉の違いなど、整った文を書くために大切なことを理解する。 ・長すぎる文を避け、わかりやすい文にする方法を理解する。 ・読点を適切に打ち、あいまいな文を避けることの大切さを理解する。 ・接続表現の種類と働きを理解する。 ・文脈による文のつながりを理解する。	教科書、プリント、新聞記事等
1 学 期 期 末 考 査 ま で	●文章の書き方(2) ・各段落の役割を把握する ・説明文・論説文などの要約 ・絵の説明・地図の説明 ●小論文の書き方 ●小論文頻出テーマについて知る（データの扱い方の学習、ディスカッション等も含む）	・文章の構成に着目し、要点を捉える。 ・図や写真を見て文章を書き、相手に伝わる文章を書くために必要なことを理解する。 ・小論文の基本的な書き方を理解する。 ・意見を筋道を立てて書く。 ・原稿用紙の使い方や推敲の観点を理解する。 ・自分の意見とは対立する意見を考慮しながら書くことの意味を理解する。 ・反論を想定して書く構成を理解し、それに沿って小論文を書く。	教科書、プリント、新聞記事等
2 学 期 中 間 考 査 ま で	●小論文頻出テーマについて知る（データの扱い方の学習、ディスカッション等も含む） ●自己分析	・さまざまな種類のグラフの特徴を知り、その読み取り方を理解する。 ・資料から読み取ったことをふまえて、自分の意見を明確にして小論文を書く。 ・経験から得たことや学んだこと、自分の長所などを考える。 ・他者の意見を聞いて、自分の特性、長所を見つける。	教科書、プリント、新聞記事等

2 学 期 期 末 考 査 ま で	●志望理由書執筆 ●各自、興味のあるテーマについて情報収集をし、論文を書く	・就きたい職業、取得したい資格、所属したい研究室等に求められる資質能力について様々な資料から把握する。 ・志望先について十分な情報を集め、比較検討した上で、説得力のある志望理由を見出し、表現する。 ・論文執筆の進め方とそのポイントを理解する。 ・引用の方法、参考文献や注の示し方を理解する。	教科書、プリント、新聞記事等
3 学 期 期 末 考 査 ま で	●小論文模試受験 ●小論文頻出テーマについて知る（データの扱い方の学習、ディスカッション等も含む） ●主体性評価 500 字執筆	・自分の最も興味のあるテーマの課題文を読み、要約し、自分の意見を述べる。 ・今年度の学習の集大成として、小論文全国模試を受験し、自分の実力と課題を知る。 ・事実やできごとをふまえて、自己を効果的にアピールする。 ・指定された文字数に応じて、内容を厳選して文章を作成する。	教科書、プリント、新聞記事等 小論文模試、模試事前学習ノート
そ の 他	状況に応じて、以下のような学習活動を検討する ●新聞記事スクラップ ●夏休みの課題として、各種コンクールへの応募（様々なテーマ、ジャンルの作品の創作） ●小論文模試の業者による講評（資料配付または出張講義）		

【成績評価の概要について】

(1) 学期における評価の対象

授業内論文テスト、小テスト〔語句知識・要約〕、小論文全国模試（3 学期に 1 回受験）、平常点（授業内取り組み、提出物等）を評価材料とする。

(2) 学期評定の算出方法

学期ごとに、上記(1)を総合して評価を行う。

論文の評価については、3 学期に受験予定の小論文模試と同様に【①課題理解／②意見の明確さ／③論述内容／④文章構成／⑤表現・表記】等の観点を設け、ルーブリック評価をしたものを点数化する。

(3) 年度末評定の算出方法

授業内論文テスト（年間 2 回程度）、小テスト〔語句知識・要約〕（各学期 3 回程度）、小論文全国模試（3 学期に 1 回受験）、平常点（授業内取り組み、提出物等）を総合して評価を行う。

評価の割合については、論文テスト・小論文模試をはじめとする課題から読み取れる思考・判断・表現の力を最も重視するが、その基礎となる知識や日々の授業の取り組みの積み重ねについても軽視する訳ではない。